

# 第10回 チャレンジカヌーツーリング（10年目）

## 1 事業概要

ダムの放流のため、ショート編は、延期日に開催となったが、参加者は、カヌーの漕艇を楽しむことができた。また、水辺で安全に活動するための知識や態度を身に付けることができた。ロング編は、10kmのツーリングを全ての参加者が完漕し、達成感を感じるとともに、肱川の自然の素晴らしさを感じることができた。



## 2 事業の目的（ねらい）

カヌーツーリングを完漕することで、達成感や自然のすばらしさを感じるとともに、地域の活性化や清流「肱川」の美化を図る。また、水辺で安全に活動するための知識や態度を参加者が身に付けられる講義や演習を実施し、カヌーによる体験活動の普及を後押しする。

## 3 企画のポイント

「ショート編」では、カヌーの基本的な漕艇方法を学ぶ「平水版」の他に、水辺で安全に活動するための知識や災害時に役立つ知識を学べる演習、3kmのミニツーリングを含む内容とし、体力に不安をもつ参加者も申し込みやすく、カヌーを安全に楽しく学ぶことができるように構成した。

また、「ロング編」の10kmツーリングを安全に実施するため、参加条件を過年度完漕者または、過年度、今年度の「ショート編」参加者であることとした。ツーリングのイメージをもったり、大洲・肱川の魅力を感じ取ったりできるように講義を入れるように構成した。

- |         |  |
|---------|--|
| 4 主 催   | 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家  |
| 5 共 催   | 大洲市・大洲市教育委員会・大洲市カヌー協会  |
| 6 後 援   | 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所・愛媛県教育委員会   |
| 7 期 日   | 【ショート編】第1回：令和元年7月13日（土）～14日（日）※中止<br>第2回：令和元年7月20日（土）～21日（日）※中止<br>予備日：令和元年8月11日（日）～12日（月・祝）<br>【ロング編】 令和元年9月14日（土）～15日（日） |
| 8 場 所   | 愛媛県大洲市肱川【ショート編】約3km【ロング編】約10km<br>国立大洲青少年交流の家（カヌー研修場を含む）   |
| 9 対 象   | 小学5・6年生親子、中学生、高校生、一般   |
| 10 参加人数 | 【ショート編】第1回：中 止 応募者数78名（定員20名）<br>第2回：中 止 応募者数49名（定員20名）<br>予備日：40名<br>【ロング編】 38名 応募者数55名（定員50名）                            |
| 11 参加費  | 【ショート編】小学生1,800円 中学生以上1,830円<br>【ロング編】小学生2,300円 中学生以上2,330円  |
| 12 講 師  | 大谷 裕之氏（アウトドアインストラクター）、大洲市カヌー協会会員   |

## 13 日 程

【ショート編】 13:00 13:30 16:30 17:30 19:30 21:00 22:30

受付	カヌー実習 (平水版)	入所 OR	夕食 ・ 入浴	【講義】シグナル コミュニケーション 【演習】簡易 スローバッグ作製	自由時間 入浴 就寝準備	就 寝
----	----------------	----------	---------------	---	--------------------	--------

6:30 9:00 12:00

起床	つ清朝 どい掃食	カヌーツーリング (3km) 柚木カヌー研修場周辺	解散
----	-------------	------------------------------	----

【ロング編】 16:30 17:00 18:00 19:30 20:30 22:30

受付	開会式 入所OR	夕食 ・ 入浴	【講義】写真が語る肱川 【講義】ロングツーリングに ついて	自由時間 入浴 就寝準備	就 寝
----	-------------	---------------	-------------------------------------	--------------------	--------

6:30 9:00 9:30 13:30 14:00

起床	つ清朝 どい掃食	移動	カヌーツーリング (10km) 八多喜祇園河原～長浜河口	昼食 清掃活動	閉会 式	移 動
----	-------------	----	---------------------------------	------------	---------	--------

## 14 活動内容

### (1) ショート編

**実習：カヌー実習（平水版）（13:30～16:30） 講師：国立大洲青少年交流の家職員**

台風による大雨のためのダム放流により、予定されていた第1回目、第2回目は実施できず、予備日の実施に至った。

1日目は、カヌー研修場でのカヌー実習（平水版）を通して、カヌーの基本的な操作について学ぶ演習を行った。参加者は、前半、カヌーの漕ぎ方や乗り降りについて学び、流れの緩やかな水域で練習に取り組んだ。また、ライフジャケットの浮力がどの程度あるのか体験してもらったため、着用状態を確認した上で参加者に実際に浮かんでもらい、流水の中でも安全が確保できることを体験してもらった。

後半、参加者に十分な漕力を身につけてもらうため、上流に向けて艇を進めた。橋脚との間にできた狭い水路をくぐり抜ける課題などに取り組む、参加者はそれぞれ基本を確認しながら演習に励んだ。



**演習：簡易スローバッグ作製（19:30～20:30） 講師：大谷裕之氏**

**講義：シグナルコミュニケーション（20:30～21:00） 講師：国立大洲青少年交流の家職員**

夜間の講座は、大谷氏を講師に招き、溺水者の救助に役立つ簡易スローバッグを作製した。これは大谷氏が考案して広めているもので、ペットボトルとPPロープ等、身近にあるもので簡単に作製できる。参加者は各自が持参したペットボトルに、冒頭で学んだ「もやい結び」や「とっくり結び」を確認しながら簡易スローバッグを完成させた。その後、武道場に移動し、救助者役と要救助者役と、それぞれ入れ替わりながら、実際に体験して使い方を身に付けた。

また、ツーリング時に使用できるハンドサインやツーリングの心構え



について交流の家職員から学び、注意喚起と意欲を高める時間とした。

**実習：ミニカヌーツーリング(9:00~11:30) 講師：大洲市カヌー協会会員**

「ショート編」2日目は、3kmのミニツーリングを行った。1日目のカヌー実習により、参加者は漕艇方法が身に付いており、スムーズにカヌーを操っていた。参加者は普段見慣れない視点からの川の景色を堪能しながら、カヌーの漕艇を楽しんでいた。カヌー研修場前の河原に到着した後、1日目に作製した簡易スローバッグを使い、それぞれに救助訓練を行った。



**(2) ロング編**

**開会式：(17:00~18:00)**

交流の家ホールで実施した開会式では、初めに主催者である国立大洲青少年交流の家所長・眞鍋幸一があいさつを述べた。次に、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所長・兵頭英人氏、大洲市教育長・東山宏氏、大洲市カヌー協会理事長・島村弘幸氏にごあいさついただいた。

**講義：写真が語る肱川(19:30~20:30) 講師：河野 達郎氏、国立大洲青少年の家職員**

夜間の講義は、街づくり写真家として活躍されている河野氏に、大洲の自然や肱川の魅力について紹介していただいた。参加者は大洲市以外の者がほとんどで、大洲の環境の素晴らしさなど写真を通して学ぶことができた。また、交流の家職員からロングツーリングに向けての見通しをもつことができるようにコース紹介があった。参加者全員にカヌーの経験があり、明日のツーリングについて期待を膨らませていた。



**実習：カヌーツーリング(9:30~13:30) 講師：国立大洲青少年交流の家職員、大洲市カヌー協会会員**

参加者は交流の家からバスでスタート地点の八多喜・祇園河原に移動した。参加者を3つのグループに分け、それぞれの班にリーダーとなる交流の家職員やサポートをするカヌー協会会員を配置した。準備体操をした後、各グループでかけ声をあげるなどして出漕に向けての雰囲気を高めていった。



交流の家眞鍋所長による太鼓の合図で長浜河口に向けてのスタートを切った。10kmのツーリングとなるので、白滝地区、大和地区でのトイレ休憩を挟み、現役で動く我が国最古の道路可動橋である長浜大橋、通称赤橋のゴールを目指した。



途中向かい風が強くなったり、波が立ったりして、参加者が艇を進めるのに苦勞する場面も見られたが、家族の励ましや交流の家職員やカヌー協会会員のサポートで全員無事に完漕することができた。赤橋のゴールの際には、橋の開閉を行い、参加者はゴールした達成感と感動を味わうことができた。



ゴールした参加者は、随時、カヌーの片付けをし、トラックに積み込んだ。その後、河口の清掃を行い、閉会式を行った。



**15 参加者の声**

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

**<ショート編>**

\*満足：88.9% \*やや満足：11.1% \*やや不満：0% \*不満：0%

○親子で自然を感じながら、カヌーを体験できてよかった。



○初めてであったが、丁寧な指導のおかげで、親子でカヌーを楽しめた。

○水害の話や救助法など、今後の生活にも役立つ内容も学べてよかった。

#### <ロング編>

\*満足：89.5% \*やや満足：7.9% \*やや不満：2.6% \*不満：0%

○通過時間にあわせて、橋を跳ね上げてもらえた演出がうれしかった。

○距離が長くて、大変だったけれど、ゴールしたときの達成感が大きかったので楽しかった。

○昨年ロングツーリングができなくて、悔しい思いをしました。今年は実施できて、大変満足している。他では味わえない達成感や充実感があった。

### 16 事業の成果

肱川の中流域のおよそ3kmのミニツーリングを含む回を「ショート編」、下流域のおよそ10kmのロングツーリングを含む回を「ロング編」として参加者を先着順で募集した。「ショート編」は、数分で定員オーバーとなり、申込開始日の午前にはフォームを閉じることとした。体力面に不安のある参加者にも気軽に申し込みができたと考えられる。また、カヌーの漕艇方法など基本的な内容を含み、未経験者でも楽しく活動できるようにした「ショート編」の企画実施は、カヌーを通した自然体験活動の普及啓発という面においても効果的であったと考える。「ロング編」は、過去ロングツーリングを経験したリピーターや一昨年度、昨年度にショート編を経験し、ロング編を申し込んでいた家族が多く見られた。一昨年度、昨年度にツーリングが開催できなかったことが要因である。10回目の事業となり、ロングツーリングを楽しみにしている参加者も増えてきている。ツーリングの前日には、大洲の自然や肱川についての講義を入れることにより、肱川の自然の豊かさ、水運に活用された歴史など、教育資源として有効な河川をカヌーで川を下るだけでなく、水上輸送など近現代に果たした歴史的な役割についても紹介できた。翌日のコースの見通しをもつだけでなく、自然や文化・歴史の視点をもってツーリングに臨むことができた。



### 17 事業の課題

一昨年度、昨年度、台風の接近の大雨等により10kmのツーリングは2年連続の中止となっていた。3年ぶりのロングツーリングとなり、交流の家職員の事業経験者がほとんどいない状態での実施であった。今年度の経験をもとに、職員のスキルを高め、大洲市カヌー協会との連携をとって来年度への事業準備を行っていききたい。

今後も肱川でのカヌーを使った事業を継続していくことで、カヌーを通した自然体験活動を推進していくとともに、地域の文化や歴史にもふれられるような企画を行っていききたい。「カヌーの大洲」を謳う当交流の家の看板事業として、今後もさらに発展的な企画の実施を検討していきたい。

(担当：主任企画指導専門職 清水 大輔)

